

ひかり

日光市少年指導センターだより 第17号

発行：令和4年9月 日光市少年指導センター

(日光市教育委員会事務局生涯学習課内)

TEL 0288-21-5182 FAX 0288-21-5185

日光市少年指導センター所長 手塚 克英

少年指導センターは、少年の健全育成のために、社会環境の浄化活動や街頭指導、及び相談事業を行っています。少年指導委員の皆様のご協力のもと、健全育成に向けて巡回活動を始めとする指導や声かけにより、年々少年事犯は減少傾向にあります。

一方、約2年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症による行動制限、新しい生活様式は、若年層がSNSやインターネットゲーム等を利用する機会の増加につながり、子どもたちが思いも寄らぬ形で犯罪に巻き込まれてしまう事案も発生しております。

また、今年度に入ってから、第7波による感染者の増加もみられますが、感染防止と経済回復の両立の観点から、各種制限も以前よりも緩和され、子どもたちの中には、これまで様々な場面で我慢し、耐えてきたことによる反動も懸念されます。

このため少年指導センターでは、家庭、学校、地域が連携した見守りや巡回指導など地域ぐるみによる取り組みを行うことで、子供たちを守り、健やかな成長につなげてまいりたいと存じます。少年指導委員をはじめ地域住民皆様におかれましては、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

少年指導センターの活動を紹介します

巡回指導

学校や職場を休んで青少年にふさわしくない場所に入ったり、タバコを吸ったり、酒を飲んだりするような少年を早く発見して正しい方向へ導くため、少年指導委員が、通学路、駅、公園、ショッピングセンター、書店、パチンコ店、ゲームセンターなどを巡回指導しています。また、夏休み中には夜間指導として、大きな祭りや行事の際に特別指導を行っています。86名の少年指導委員が年間を通して計画的に活動しています。

*今年度は新型コロナウイルス対応の内容や回数を精選して活動しています。

環境浄化活動

少年に好ましくない出版物、DVD、ポスター、写真等が県の条例等に沿って販売されているかどうかを調査し、適切でない場合には販売店に指導を行っています。また、青少年への携帯電話等の販売の際にフィルタリング機能が適切に掛けられているか調査指導しています。上都賀地区青少年育成対策連絡協議会や警察などの関係機関と連携して環境浄化に努めています。

少年相談

ネットトラブルやひきこもりなど青少年の様々な悩みごとについて、電話や面談を通して本人やその保護者、関係者との相談に応じています。必要があれば、関係支援機関・団体の紹介をしています。

広報活動

少年の非行防止や健全育成活動状況を載せた広報紙「ひかり」を年2回発行し、小中学生のいる家庭や関係機関に配布しています。また、必要に応じてチラシやポスターの配布を行っています。

○日光市少年指導委員の活動が開始されました。

令和4年度、日光市少年指導委員86名が委嘱されました。内訳は、今市地区（今市・藤原・栗山）61名、日光地区（日光・足尾）25名です。新型コロナウイルス感染症の影響で、活動は制限されていますが、感染防止に努めながら、子どもたちを見守り、安心・安全な環境を整備することを主たる目的として、7月から活動が開始されました。

3年ぶりの鬼怒川龍王祭、神輿の熱気に歓声響く

3年ぶりに、7月22日（金）・23日（土）の二日間、鬼怒川温泉にて龍王祭が開催されました。少年指導委員藤原2班の小池順さん、船曳富士男さんに事務局の大嶋・神山が同行しました。お二人とは初めてお会いしましたが、知識や経験が豊富で、地域の様子（変遷）を詳細に教えていただき、会場外の隠れた巡回指導場所などの多くの情報を得ることができました。

新型コロナ感染症が再拡大している現状から、開始時刻の人出は少なかったですが、露天商にお客が集まり、鬼祭會「本神輿」の渡御や龍王太鼓などのステージイベントの盛り上がりと共にお祭りムードが高まりました。

参加者も見学者も思いっきり楽しむことはできませんが、主催者のご尽力により、たくさんの思い出を作ることができました。伝統文化の継承や町の活性化が図れたと思います。子どもたちを見守り、愛の声かけ活動を実施した少年指導委員の皆様、ボランティアでパトロールに参加していただいた先生方、PTA、警察関係の皆様へ深く感謝申し上げます。



【 お互いを理解し、誰もが居心地の良い社会をつくりたい 】

多様性を認め合う社会に

令和4年4月10日、下野新聞日曜論壇より
山を遠くから見て桜があると分かるのは、春の時季である。ああ、そこにいたんだね。きれいだね、と声を掛けたくくなる。でも花が散ると、茂る緑の中で桜を見失う。花が咲くのは桜だけでない。秋にはモミジも色づくし、冬のケヤキの枝ぶりには目を見張る。山に多様な植物が育つように、私たちの社会にも多様な人がいる。障害や病気を理由に排除しない。人種、性的志向、容姿や外見、考えかたで差別しないとは聞いていても、理解は十分だろうか。

中略

私たちの住む地域のどこかに、生きづらさ、生きにくさを感じている子どもがいる。大切なのは子どもを見失しあわないこと。その子どもや家庭に関心を持ち、できることをする。そんな大人がたくさんいることも知ってほしい。子どもが子どもらしくあるために、私たちにできることはたくさんある。（NPO法人うりずん理事長）

☆「うりずん」は重症障がい者とその家族を支える活動を行っているNPO法人です。

多様性を認め合うために、多様性を尊重するために私たちは何ができるでしょうか。広い世界には自分と異なる人々が存在します。

交通安全へのお願い

通勤時、ラジオを聴いています。毎日決まった時間に流れてくるスピーチなので、脳裏に焼き付いています。通学路事故で長女を失った風見しんごさんの訴えです。

2007年、風見しんごさんの長女のえみるさんは、青信号で横断歩道を渡っていたところを右折してきたトラックにはねられました。自宅から100メートルほどの現場で、風見さんは事故にあった娘を目の当たりにしました。

「交通事故ってこんな地獄なのか」、連日起き続けている交通事故のひとつひとつがこんなに悲惨だと知って改めて恐怖を感じました。風見さんは、「ルールを破る大人が命を奪う」と、加害者への強い怒りを表しましたが、それよりも自省の念が強く、その想いを次のように話しました。参観日や運動会などの行事以外で、娘と一緒に学校に行きながら、「ここに気をつけるよ」って言ってやったことが何回あったらうと。

大人が子どもを守るために、家庭での会話や体験が大事です。